

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 2月 10日

事業所名 むく

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7			
	2	職員の配置数は適切である	6	1	生活介護の職員に支援に入ってもらい、放デイから繋ぐ役割を担ってもらっている	長期休暇は特に受入れ人数も増える為、職員を1名増やしている ボランティアなどの受入れをして、活動を充実させる努力をしている
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7			
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7			
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	1		第三者評価の実施はしていない。法人内で課題検討し、支援の改善等に努めている
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7			
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	1	相談員、他事業所の意見を踏まえ、本人やご家族の意向に沿える様意識している	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	2		標準化されたツールはなく、障害の特性に応じて専門職としての役割意識を持ち、より充実した支援に繋げていく
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	1		季節行事、五感を使った活動を意識している 社会資源を活用した活動も提案していきたい
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	1	課題意識ではなく、本人の好きを伸ばせる支援を意識している	より個人のニーズに応じた環境設定を意識し、それぞれの過ごし方について職員間で周知して支援にあたりたい
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	2	・当日が難しければ、翌日の支援前ミーティングで振り返りをし、支援に般化させている ・ケース会議の活用	・送迎を始め、支援終了後に職員が全員揃わない為、振り返りは翌日になることもある ・早急に対応が必要な件においては、記録でのやり取りをし児発管が中心に対応をする
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	1	インシデント内容については、その場、もしくは翌日にはミニ会議を行い情報共有に努めている	記録に関しては、支援前に計画書を確認し、誰の何の支援をし、本人の様子がどうであったかを端的に書けるように指導している
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	1	半年に1回のモニタリングを実施し、現状把握に努めている	相談支援専門員や他事業所、学校との情報共有に努める
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7				
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	22	7			
	23	6	1	同一法人内での引き継ぎは直接支援者が引継ぎでき、スムーズ。	相談支援専門員を介して、直接やりとりさせていただく
	24	7			
	25	6	1	必要に応じて相談窓口を決めている。 職員の自主研修	本人の特性に応じた支援、振り返りが必要な場合は他機関へ相談する。 相談支援専門員を介して、情報共有に努める
	26		7	法人や事業所単位での地域交流の場があるため、タイミングが合えば利用している	・対象者が重症児者のため、感染症への懸念があり積極的に行えていない。保護者の意向も確認しながら、社会資源を活用する活動から再開させていきたい
	27	6	1	分科会資料の供覧 情報の提供 伝達研修	こども部会の通所分科会に継続参加し、他事業所との情報共有に努める 情報を職員に伝達する
	28	7			
	29	3	4	お困り感に対してできた事、うまくいった事を保護者に伝えるように努めている	・個別面談での伝達を意識している
保護者への説明責任等	30	7			
	31	7			
	32	6	1		保護者同士の連携支援は行えていない。保護者会は年1回は開催し、公式ラインを活用し、議事録を添付し共有に努めている。また、顔を合わせた時に話題に触れるきっかけを作っていきたい。
	33	7			
	34	7			
	35	7			
	36	7			
	37	7			
非常時等の対応	38	7			
	39	7		・年間予定として組み込んでいる ・警備会社と連携した訓練も行き非常時に備えている	・火災、風水害、不審者侵入に備えた訓練を定期的に行っている。警備会社とも連携をし、利用者及び職員が安心して避難できる様、継続して取り組みたい ・停電の時の備えを確認し、準備する
	40	7			
	41	7			
	42	6	1		年度初めに、改めて調査する
	43	7			